

豪州スカボロガス田開発プロジェクトへの参画

エルエヌジージャパン株式会社（本社：東京都千代田区、社長：小野島恭、以下「当社」）は、豪州に設立した LJS Scarborough Pty Ltd（以下「LJS 社」）を通じて、豪州スカボロガス田開発プロジェクトに参画することとし、このたび、豪州最大手のエネルギー会社である Woodside Energy Group Ltd（以下「ウッドサイド社」）の子会社との間で、同ガス田権益の 10%を取得することを定めた権益売買契約を締結しました。この権益取得は、豪州政府の関連許認可等を経て完了します。

本プロジェクトは、西豪州北西部沖合約 375km の連邦海域に位置するスカボロガス田から生産される天然ガスを、ウッドサイド社が西豪州カラサで運営操業するプルート LNG 基地まで海底パイプラインで輸送し、同基地内に新設されるプルートレーン 2 の運営会社¹に液化加工委託のうえで LNG を生産するものです。LNG 生産量はプロジェクト全体で最大約 800 万トン/年を見込んでおり、加えて、西豪州の法令に基づき LNG 生産量の 15%に相当する天然ガスを州内に供給します。本プロジェクトは 2021 年 11 月に最終投資決定済みで、総投資額はプロジェクト全体で 57 億米ドル（約 8,000 億円）を予定しています。スカボロガス田の天然ガス性状は CO2 含有率が 0.1%未満と非常に低いため、本件は生産段階での温室効果ガス排出量が少なく、環境負荷の小さい LNG プロジェクトになります。

今後当社は、本プロジェクトの 10%権益保有者として、オペレーターのウッドサイド社と連携のうえ、2026 年の LNG 生産開始に向けて本プロジェクトを推進していきます。また生産開始後は、権益相当分の LNG（最大約 80 万トン/年）を引き取り、自ら販売していきます。

天然ガスおよび LNG は、トランジションエネルギーとして重要な役割を担うことが期待されており、特にアジアにおける需要の増加が見込まれます。また、昨今では地政学リスクに起因してエネルギーセキュリティの重要性が再認識されており、今回の権益取得は日本のエネルギー安全保障に寄与するものと考えます。当社は、本プロジェクトを通じ、豪州の発展に貢献していくとともに、日本をはじめとするアジアを中心に、低炭素・脱炭素社会の実現およびエネルギーの安定供給に取り組んでまいります。

また、広範な戦略的提携の一環として、当社とウッドサイド社は、同社ポートフォリオからの LNG 引き取りに関する基本合意書（Non-Binding Heads of Agreement）を締結しました。加えて、当社グループでは、脱炭素事業の分野においてもウッドサイド社との協業検討を進めていきます。

【参考】

¹ ウッドサイド社 51%、Global Infrastructure Partners 社 49%。2021 年 11 月、本プロジェクトと同時期に最終投資決定済み。

1. ウッドサイド社概要

会社名 : Woodside Energy Group Ltd
設立 : 1954 年
本社所在地 : 西豪州パース
最高経営責任者 : Meg O'Neill

2. LJS 社概要

会社名 : LJ Scarborough Pty Ltd
設立 : 2023 年 7 月
本社所在地 : 西豪州パース (予定)
事業内容 : スカボロプロジェクトの開発・生産・販売、およびそれに付帯する業務
出資者 : エルエヌジージャパン株式会社 100%

3. 本プロジェクト概要

鉱区名 : 西豪州沖合 WA-61-L、WA-62-L
オペレーター : ウッドサイド社
権益比率 (当社参画後) : ウッドサイド社 90.0%、LJS 社 10.0%
位置 :



お問い合わせがございましたら、当社 HP に掲載のフォームをご利用ください。(担当：経営企画部)

<https://www.lngjapan.com/contact/>